

# 8 天城シャクナゲコース

天城山は東西44、南北24、高さで奥に伊豆半島の約3分の1を占める休火山の総称で、天城山という山はない。最高峰は万三郎岳(1405.3m)で、次に万二郎岳(1299m)など一連の山々が天城九木(松・杉・桧・樺・檜・桐・楠・榎)などのほかにブナやヒメシヤラ、イヌシデ、アセビ、マメザクラ、カエデ類などが見事な自然林を作りだしている。

天城の名は、山中に甘木(アマギアマチャ)がたぐきあることからついたという。また、麓から見上げると天に聳える城のようだと、という説もある。

天城が一番華やかになるのは初夏で、トウゴクミツバツツジ、ドウダンツツジ、アマギシヤクナゲが咲く。6月下旬に入ると赤いアマギツツジが山々を染める。

天城山の固有種であるアマギシヤクナゲは主に石楠立(はなたて)付近から万三郎岳にかけて多く見られ、5月中旬から6月初旬の見ごろには、たぐきさんの花見ハイカーで賑わう。

場合は、登山口にハイカー専用無料駐車場(普通車88台・バス5台)がある。ただし、シーズン中の土日・祝日には早くから満車となることがある。

天城縦走路の案内板を見て杉・桧の林に入る。丸太橋を渡り堰堤から階段を上がり平坦な道を20分足らずで四辻(万二郎登山口)の三差路。万二郎岳45分の道標がある。シャクナゲハイイクは、ここから万二郎岳へ万三郎岳へ、酒沢分岐点へ、四辻(万二郎登山口)へ、周遊コースなので、どちらから廻ってもよいが、ここでは四辻から左に入り万二郎岳へ向かう。

ブナやヒメシヤラが目立つ自然林の中を行く。所々に道標があり、また、縦走路標識(青と黄色のプレート)もある。迷うことはない。

樹林帯を緩やかに登り、かつての台風で大きくガシラ沢を渡る。少し急になった道をしばらく登ると、1時間くらいで万二郎岳の山頂に着く。樹木に覆われた何の変哲もない頂きである。万三郎岳へ向かって岩の多い急斜面を下ると展望のよい岩場に出る。東伊豆から南伊豆に伸びた海岸線や三筋山、正面にこれからの向かう馬の背、その肩に万三郎岳がのぞいている。晴れていれば北側に富士山が望める。

富士山が望める。

ぐんと下って登り返すと馬の背。大きな岩の上、通称「関所」から振り返ると、万二郎岳や遠笠山、ゴルフ場が見える。

長いアセビのトンネルを抜けると荒れた急な下り。十分注意して下ろう。下り切ると石楠立。この付近からアマギシヤクナゲの群落が始まる。ブナの林に混じってピンク色のシャクナゲが迎えてくれる。

シャクナゲの花を愛でながら登りきると万三郎岳の山頂に出る。樹木に覆われた山頂北側の樹木の切れ目から富士山が望める。

帰りは、かつては山頂から酒沢分岐点に直に下る道があったが、今はシャクナゲの保護のため、迂回路ができています。山頂から片瀬峠に向かって10分ほど行った先に万三郎岳下分岐点がある。この分岐を右に500段余りある長い木段を下る。この付近にもアマギシヤクナゲが見られる。道が緩やかになると酒沢分岐点に出る。このまま万三郎岳の裾を巻くように下る。この辺りにもアマギシヤクナゲが見られる。

裾を巻くように斜面の緩やかに上り下りを繰り返す。左側が急に落ちた斜面で、冬場は凍結で滑り易く、過去に滑落事故が何度も起きている。要注意の所だ。

◆伊東駅発天城高原ゴルフ場行  
— 天城東急リゾートシャトルバス —  
《通年》  
7:55 10:10 14:05 15:05 16:35

◆天城高原ゴルフ場発伊東駅行  
《通年》  
8:16 9:00 11:15 15:10 16:10 17:40

◆運賃：500円  
冬季ゴルフ場が休業(クローズ)時は要確認

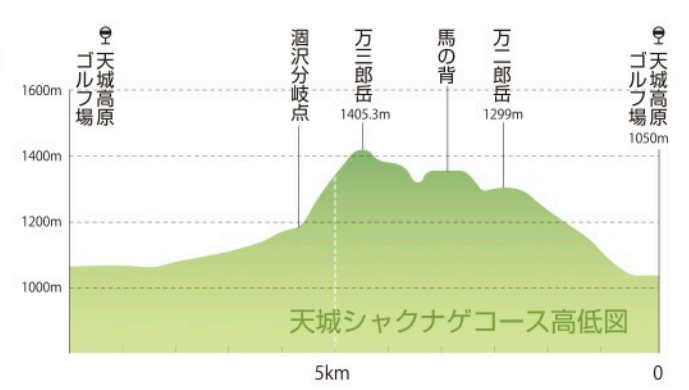
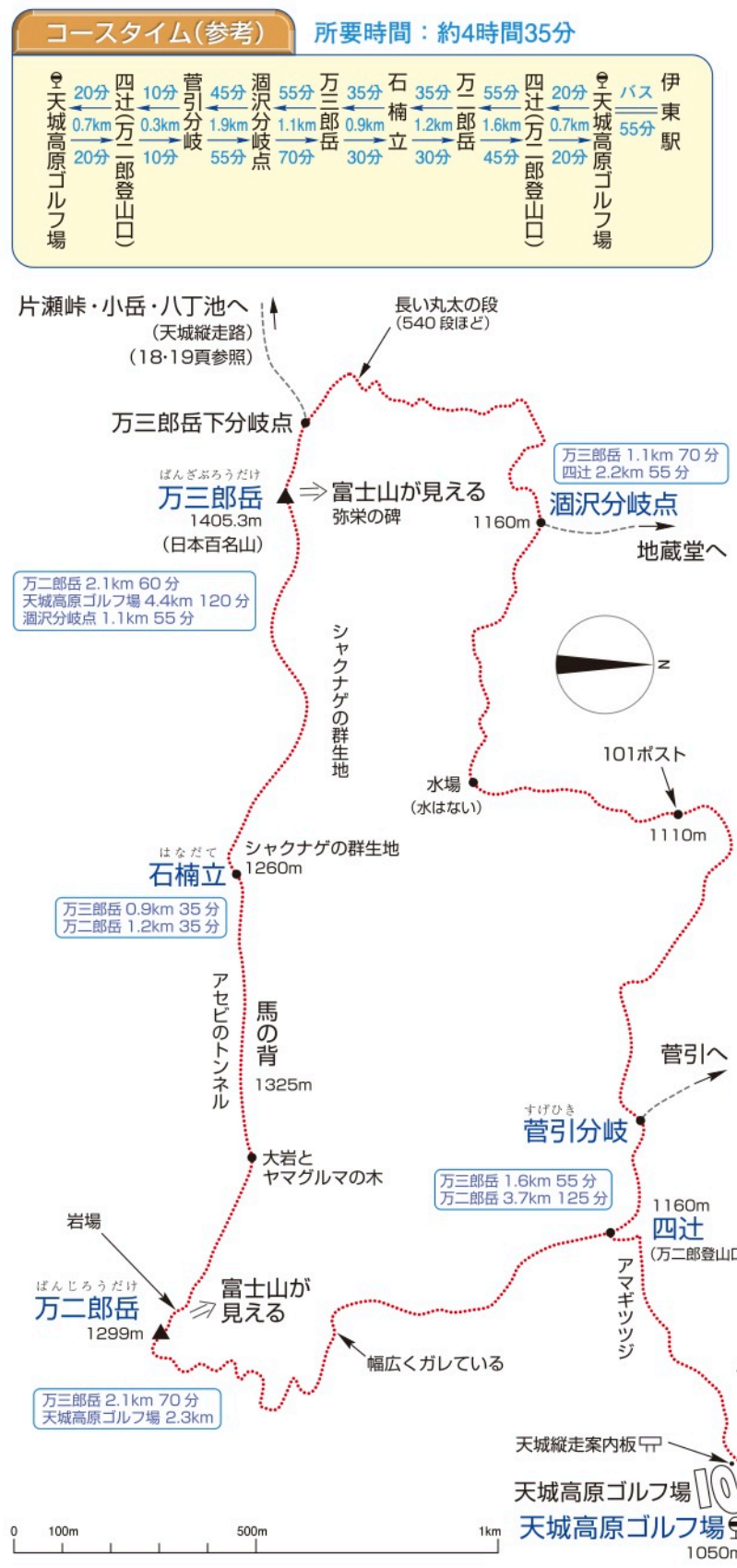
●バスのお問い合わせは  
伊豆東海バス ☎0557・37・5121  
H24・4・1改正



▲アマギシヤクナゲ



▲ブナ林 (万三郎岳下分岐点)



○田方消防本部  
☎05558・75・0119

菅引分岐を過ぎると、前に通った四辻(万二郎登山口)に着く。バス停まではあと20分足らずだ。